

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 1 区分

【発行日】平成23年12月15日 (2011.12.15)

【公開番号】特開2010-149055(P2010-149055A)

【公開日】平成22年7月8日 (2010.7.8)

【年通号数】公開・登録公報2010-027

【出願番号】特願2008-330563(P2008-330563)

【国際特許分類】

B 0 1 D 46/52 (2006.01)

B 0 1 D 39/16 (2006.01)

【F I】

B 0 1 D 46/52 A

B 0 1 D 39/16 A

【手続補正書】

【提出日】平成23年10月28日 (2011.10.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 6】

C D 方向に配列しているドット状エンボス突起の間隔は、隣り合う凸突起列と凸突起列の間隔が 15 mm ~ 60 mm であることが好ましい。凸突起列と凸突起列の間には凹突起列が含まれるが、凹突起列は凸突起列と凸突起列の間に形成されることが好ましい。偏って配列されると、フィルタパックにして風を流したときに風の流れが不均一になり、圧力損失上昇のおそれがあるためである。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 8】

(実施例 8)

ドット状エンボスの形状を半球とし、向かい合う各々の突起部のうち一方の先端にさらに直径 1 mm、高さ 1 mm の凸部を形成し、もう一方の先端に直径 1 mm、深さ 1 mm の凹部を形成したこと以外は実施例 1 と同様にして、ドット状エンボス突起 8 A, 8 B, 8 C, 8 D, 8 E を形成し、図 3 (h) に示す通りブリーツ型エアフィルタパックを製作し、また、実施例 1 と同様に支柱で補強した。